

別表第4
(表面)

補強コンクリートブロック造の建物の耐力度調査票

IV 学校種別
V 整理番号

I 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	III 結果点数				
					調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	A 構造耐力	耐力度	
					予備調査者	会社名	一級建築士登録番号	氏名			
II 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積	建物の経過年数		被災歴		補修歴		
			+	一階面積	建築年月	長寿命化年月	種類	被災年	内容	補修年	B 健全度
				延べ面積	経過年数	経過年数					

A 構造耐力	① 水平耐力 q	階	方向	耐力壁厚さ t(mm)	耐力壁長さ Σl(mm)	床面積 A(m ²)	壁量 L(mm/m ²)	標準壁量 L _N (mm/m ²)	方向別水平耐力	q _X または q _Y の最小値	判別式	評点	評点合計
		桁行 X	q _X	q =		1.0 ≤ q	1.0	⑦	⑦	⑦	⑦		
			張間 Y	q _Y	0.5 < q < 1.0	直線補間							
		q ≤ 0.5		0.5	①	①	①	①					
	(b) コンクリートブロック強度 α	種別標準圧縮強度 f _N (N/mm ²)		圧縮強度 f _B (N/mm ²)					α = f _B /f _N	判別式	評点	A = ⑦ + ①	
	旧A種	2.5	A種	4.0	1.0 ≤ α	1.0	⑦	⑦					
	旧B種	3.9	B種	6.0		0.5 < α < 1.0			直線補間				
	旧C種	5.9	C種	8.0		α ≤ 0.5			0.5				
	(c) 偏心率 Re	偏心距離 e		弾力半径 γ _e		Re = e/γ _e		Reの最大値	判別式	評点	(0.3以下は0.3とする)		
	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	Reの最大値	判別式	⑦	⑦			
Re ≤ 0.15												1.0	
0.15 < Re < 0.3		直線補間											
0.3 ≤ Re		0.7											
(d) 臥梁・スラブの構造 m	臥梁寸法 m ₁		スラブ(屋根) m ₂		m = m ₁ × m ₂	評価	評点	⑤	(0.3以下は0.3とする)				
規定を満足		規定を満足しない		規定を満足		規定を満足しない				1	m = 1.0	1.0	
1.0		0.9		1.0		0.9				0.9	m = 0.9	0.9	
0.81		m = 0.81		0.8									
② 基礎構造 β	種別指数 u		基礎の被害予測に関する指標 p				基礎構造 β	判別式	評点	⑤	⑤		
	木杭	0.8	液状化が予想される地域である				0.8	β = u × p	1.0 ≤ β			1.0	
	RC杭	0.9	基礎梁せいの規定を満足しない				0.9	0.64 < β < 1.0	直線補間				
	その他	1.0	上記に該当しない場合				1.0	β ≤ 0.64	0.64				

B 健全度	① 経年変化 T	経過年数 t	判別式(建築時からの経過年数)	経過年数 t ₂	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点	評点合計								
	年 T = (40 - t) / 40 =		年 T = (30 - t ₂) / 40 =		⑦	⑦ (⑦ × 25)	点								
	② コンクリート中性化深さ及び鉄筋かぶり厚さ	(a) コンクリート中性化深さ a	部位	臥梁 1	臥梁 2	基礎梁 1	基礎梁 2	平均値 a	判別式	評点	⑦	⑦ (⑦ × 5)			
			中性化深さ	a ≤ 1.5cm		1.0		⑦	⑦						
			1.5cm < a < 3cm		直線補間										
	3cm ≤ a		0.5												
	(b) 鉄筋かぶり厚さ b	部位	臥梁 1	臥梁 2	基礎梁 1	基礎梁 2	平均値 b	判別式	評点	⑦	⑦ (⑦ × 10)				
		かぶり厚さ	3cm ≤ b		1.0		⑦	⑦							
		1.5cm < b < 3cm		直線補間											
	b ≤ 1.5cm		0.5												
③ 充てんコンクリート中性化深さ及び鉄筋かぶり厚さ	(a) 充てんコンクリート中性化深さ a'	部位	縦目地 1	縦目地 2	横目地 1	横目地 2	平均値 a'	評価	評点	⑤	⑤ (⑤ × 5)				
		状況	1		1-2		2-3		3-4			4-5		6含む	
	ランク	1.0		0.9		0.8		0.7		0.5		0.3			
	(b) 鉄筋かぶり厚さ b'	部位	縦目地 1	縦目地 2	横目地 1	横目地 2	平均値 b'	評価	評点	⑦	⑦ (⑦ × 10)				
状況		1		1-2		2-3		3-4				4-5		6含む	
ランク	1.0		0.9		0.8		0.7		0.5		0.3				
④ 鉄筋腐食度 F	部位	臥梁	基礎梁	縦筋	横筋	平均値 F	評価	評点	⑤	⑤ (⑤ × 10)					
	状況	1		1-2		2-3		3-4			4-5		6含む		
	ランク	1.0		0.9		0.8		0.7			0.5		0.3		
⑤ ひび割れ C	部位	臥梁、基礎梁	床	ブロック壁 1	ブロック壁 2	c または c' の最大値	評価	評点	⑤	⑤ (⑤ × 10)					
	状況	1		1-2		2-3		3-4			4-5				
	ランク	1.0		0.9		0.8		0.7			0.5				
⑥ 不同沈下量 φ	階	相対沈下量 ε	スパン l		φ = ε / l		φの最大値	判別式	評点	⑦	⑦ (⑦ × 10)				
	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	φの最大値	判別式	⑦			⑦			
													φ ≤ 1/500	1.0	
1/500 < φ < 1/200		直線補間													
1/200 ≤ φ		0.5													
⑦ たわみ量 θ	たわみ量 δ	長さ l		θ = δ / l		θの最大値	判別式	評点	⑦	⑦ (⑦ × 5)					
	床	梁	床	梁	床	梁	θの最大値	判別式			⑦	⑦			
													θ ≤ 1/300	1.0	
1/300 < θ < 1/200		直線補間													
1/200 ≤ θ		0.5													
⑧ 構造使用材料 M	ブロック種別	旧A種	旧B種	旧C種	A種	B種	C種	判別式	評点	⑦	⑦ (min(⑦, ⑧) × 10)				
		0.3	0.5	0.8	0.5	0.8	1.0	当該値の最小値							
	コンクリート圧縮強度	試験方法	臥梁 1	臥梁 2	基礎梁 1	基礎梁 2	平均強度 F _c	判別式	評点	①	①				
		18 ≤ F _c	1.0												
13.5 < F _c < 18		直線補間													
F _c ≤ 13.5		0.0													
⑨ 火災による疲弊度 S	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積 S ₀	被災率 S = S _i /S ₀	判別式	評点	⑤	⑤				
	被災床面積	S ₁	S ₂	S ₃	S ₄	S = 0	1.0								
	評価後被災面積 S _t	S _t = S ₁ + S ₂ × 0.75 + S ₃ × 0.5 + S ₄ × 0.25 =				0 < S < 1	直線補間								
S = 1		0.5													

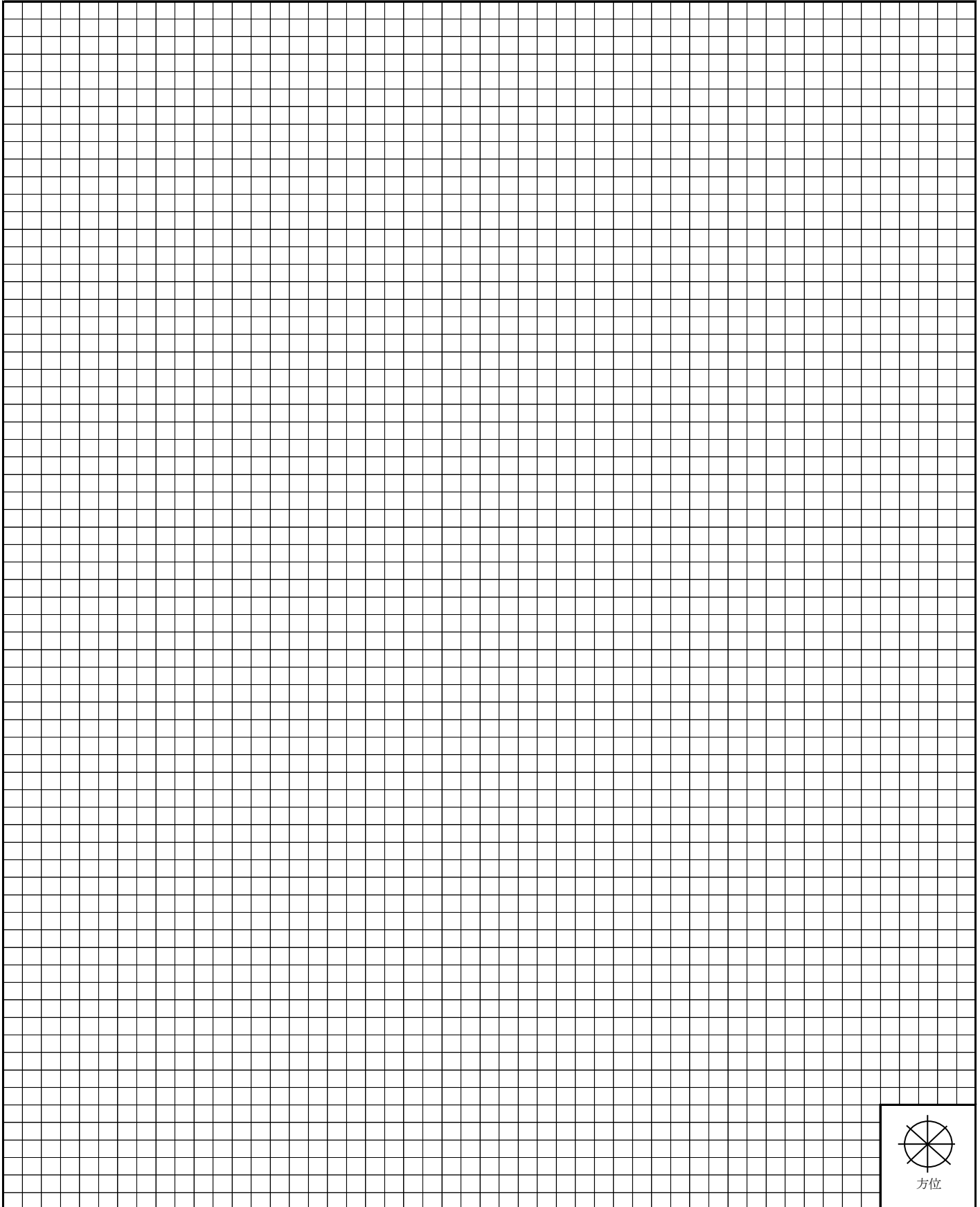

C 立地条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評価	評点
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	① + ② + ③ + ④ + ⑤
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	崖地	0.9	5
	二種地域	0.85	三種地盤	0.8	支持地盤が著しく傾斜した敷地	0.9	5
一種地域	0.8	局所的な高台	0.9	一級積雪寒冷地域	0.8	5	5

(裏面)

学校名

調査者の意見

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3. 平面図に、ブロック強度、コンクリート圧縮強度、コンクリート及び充填コンクリートの中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度の測定位置を記入する。
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

																																																									
																														 方位																											



方位